I·O DATA

10BASE-T LAN + 56/14.4Kbps モデム コンビネーションPCカード

PCEM-560T

取扱説明書

16883-01

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
   したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器 PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
   したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、1部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)

- I-O DATA,PLANTは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,WindowsNT,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Ethernetは、米国 Xerox Corporationの登録商標です。
- NetWareは、米国 Novell,Inc.の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

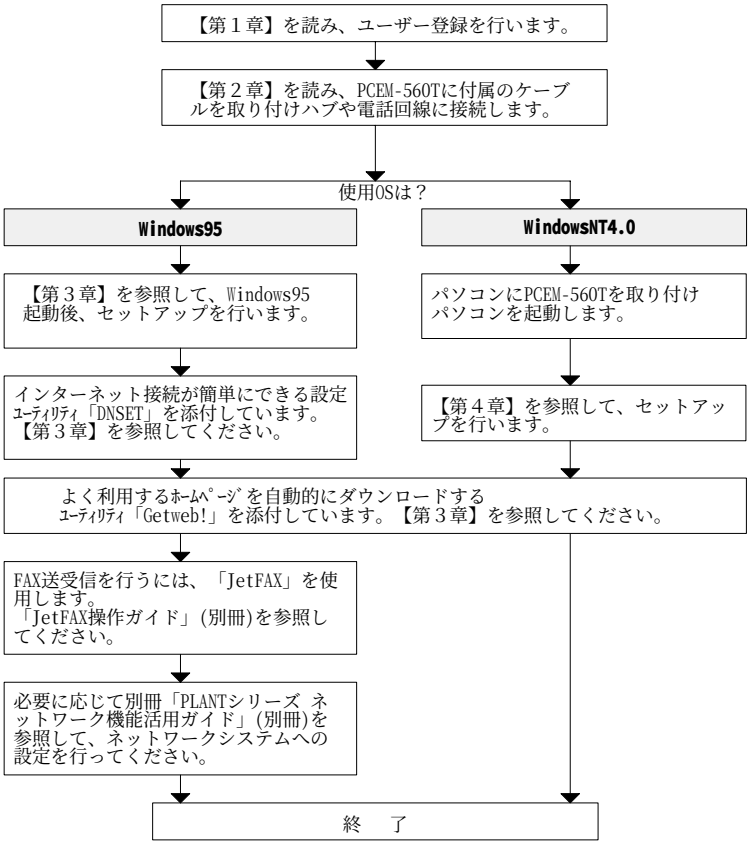
このたびは、PCカード規格(TYPE II)準拠56/14.4Kbpsモデム&10BASE-T LANアダプタコンビネーションPCカード『PCEM-560T』をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書をご覧になるにあたって

・本書の見方

以下のフローに沿って、必要な箇所をお読みください。



• 呼び方

呼び方	意味
Windows95	Microsoft ®Windows ®95 Operating System
WindowsNT4.0	Microsoft ®WindowsNT ®Operating System Version4.0
WindowsNT	WindowsNT4.0の略称
Windows	Windows95及びWindowsNT4.0の総称
「ネットワークOS」またはNOS	Network Operating System

• ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

《ドライブ構成》

PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合

A：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/720KB)
C：ハードディスク装置
ご使用になるOSがインストール済みで起動可能
D：CD-ROMドライブ

PC-9800シリーズの場合

A：ハードディスク装置
ご使用になるOSがインストール済みで起動可能
B：ハードディスク装置
C：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/1.25MB/720KB)
D：CD-ROMドライブ

ご使用にあたってのお願い

- **PCEM-560TのデータFAXモデム部はNTTの一般加入回線(2線式)にのみ適合するように設計されています。ビジネスホン等、4線式の構内交換機ではご使用になれません。**
  4線式の構内回線に接続する場合は、別途、市販の「4線→2線」変換アダプタが必要になります。

はじめに i
目次 iii

第1章 ご使用になる前に……1
1.1 特徴 1
1.2 箱を開けたら 3
1.3 動作環境 5
1.4 取り扱い及び使用上の注意 7
1.5 実行用ディスクの作り方 9

第2章 取り付け方法……10
2.1 各部の名称 10
2.2 取り付け 12
2.2.1 モデムの接続 12
2.2.2 LANアダプタの接続 15

第3章 日本語Windows95で使用するには ……17
3.1 インストール方法 17
3.1.1 インストールの前に 17
3.1.2 インストール 19
3.1.3 インストール終了後の確認 23
3.2 Windows95を使用中に取り外す場合の注意事項 28
3.3 インストールされた情報を削除するには 30
3.4 インターネットへの接続（モデム） 32
3.4.1 ダイヤルアップネットワークの確認 32
3.4.2 TCP/IPの確認 35
3.4.3 ダイヤルアップネットワークの設定 36
3.4.4 インターネットへ接続する 38
3.4.5 よく利用するホームページがある場合 39
3.5 FAXの送受信（モデム） 40

3.6 ネットワークシステムへの接続（LAN） 41
3.7 便利なツールの使い方 42

第4章 日本語WindowsNT4.0で使用するには……45

4.1 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ 45
4.1.1 ドライバのインストール 45
4.1.2 インストール終了後の確認 52
4.2 インターネットへの接続（モデム） 54
4.2.1 モデム機能のインストール 55
4.2.2 インターネットに接続するまでの設定 58
4.2.3 インターネットへの接続 60

付録1 困った時には……62

付1.1 LAN,モデム共通 62
● Windows95上のトラブル 62
● WindowsNT4.0上のトラブル 64
付1.2 モデム使用時のトラブル 65

付録2 ハードウェア仕様……70

PLANTコールセンターへのお問い合わせ 72
サポートソフトのバージョンアップ 73
修理について 74

第1章 ご使用になる前に

この章では、PCEM-560Tをご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

1.1 特徴

PCEM-560Tは、LANアダプタ機能とモデム機能という、2つの機能を1枚のカードに凝縮した高性能多機能カードです。

●PCカード規格(TYPE II)に準拠しています。

●外部電源のいらない低消費電力設計です。

●ソフトウェアで環境設定を行うスイッチレス設計です。

データ/FAXモデム部機能

●データモデム部はK56flexに対応。自動速度認識機能により、発信時／着信時は相手の速度に合わせて通信することができます。また、端末速度は最高115200bpsで通信できます。

注 意

回線状況により、設定回線速度［特に50000bps以上］より低い速度で接続する場合があります。（ISDN回線などのノイズの少ない回線をご使用ください。）

●フラッシュROM搭載。ダウンローダブルタイプのモデムチップとフラッシュROMの採用で、V.90への対応もバッチリ！

●インターネットオートパイロットマネージャ「Getweb!」添付。
Getweb!を使用すればお気に入りページのURLを指定するだけで、簡単に保存することができます。

●FAXモデム部は、2400～14400bpsの通信速度に対応し、EIA Class1に対応。FAXを受信することもできます。

●MNPクラス4とITU-T（旧CCITT）のV.42エラー訂正機能を搭載。さらにMNPクラス10の搭載で、回線状態が悪い場合でもエラーフリーの通信が行えます。
また、MNPクラス5とITU-T V.42bisのデータ圧縮機能搭載のため、MNPクラス5では最大200%、ITU-T V.42bisでは最大400%の実効通信が可能です。

●JetFAX（Windows95用）をインストールすれば、使い慣れたWindows95アプリケーションでデータを作り、そのままダイレクトにFAX送信できます。
手間要らずの高品位イメージ送信、ワンクリックでできる受信待機、複数の送信手順を一度に指定できるスケジュール送信、送付案内書の自動添付など、使いやすい高機能が満載です。
スキャナから原稿を作ったり、テキストファイルを原稿に変換したり、受信した原稿をBMP形式に変えたり、FAXをより活用するためのユーティリティも簡単操作でOK！
アウトラインフォント、OLEで取り込んだイラストやグラフ、写真、画像といった、Windows95アプリならではの文書の品質を落とさずに送信できます。
まさにWindows95ユーザー必携のソフトです。

LANｱﾀﾞﾌﾟﾀ部機能

●Ethernet IEEE 802.3（10BASE-T）に準拠しています。

●RJ-45[10BASE-T]が使用できます。

●Windows95,WindowsNT4.0に対応しています。

●高速！Full-duplex対応
スイッチングハブを併用することで理論値2倍の高速通信が可能。
（全二重対応）

1.2 箱を開けたら

• 内容のご確認

No.	内容物	個数	備考
1	データFAXモデム&LANアダプタPCカード	１枚	PCEM-560T
2	LAN用ケーブル	１本	RJ-45(10BASE-T)
3	RJ-45中継コネクタ	１個	約30cm（アイボリーホワイト）
4	データFAXモデム用ケーブル	１本	RJ-11
5	RJ-11中継コネクタ	１個	約2m（グレー）
6	サポートソフトウェアディスク （3.5インチ2HD…1.44MB）	３枚	・PCEM-560Tサポートソフト① ・PCEM-560Tサポートソフト② （JetFAX,DNSETを含む） ・GetWeb!
7	取扱説明書	３冊	・PCEM-560T取扱説明書(本書) ・JetFax操作ガイド ・PLANTｼﾘｰｽﾞ ﾈｯﾄﾜｰｸ機能活用ｶﾞｲﾄﾞ
8	Verシール	２枚	
9	ハードウェア保証書	１枚	
10	ハードウェアシリアルNo.シール	１枚	
11	ユーザー登録カード	１枚	本書巻末
12	『安全で快適にお使いいただくために』	１冊	

万が一、不足品がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

• ユーザー登録について

オンラインによる登録と、ハガキによる登録の2通りがあります。
いずれかの方法で登録を行ってください。

《オンラインによる登録》（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ http://www.iodata.co.jp/support/）

I-O DATA ホームページのサポートコーナーに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入することにより、即座にユーザー登録が行えます。

オンライン・ユーザー登録を行えば、抽選で賞品の当たる等のお楽しみ企画をご用意しております。
オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

《ハガキによる登録》

1).添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。

2). ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。

注 意

1) 弊社では、PLANTコールセンターでソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。
お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録してください。

2) ユーザー登録カードによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

1.3 動作環境

• 対応機種

CPUが486以上でPCカードTYPE II スロットを搭載または装備した以下のパソコン

- ・NEC PC98-NXシリーズ
- ・DOS/Vマシン※
- ・NEC PC-9821シリーズ（PC-9821Neは除く）
- ・弊社製CardDock/DV,CardDock2-EX/DV,CardDock2-IN/DVが動作可能なDOS/Vマシン
- ・弊社製CardDock/98,CardDock2-EX/98が動作可能なPC-9800シリーズ

※　弊社ではOADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。

注 意

CardDock/DV,CardDock2-EX/DV,CardDock/98,CardDock2-EX/98およびCardDock2-IN/DVはWindowsNT4.0では、ご使用いただけません。

• 対応ＯＳ

日本語Windows95

日本語WindowsNT4.0

日本語WindowsNT4.0をお使いの場合、Service Pack 3※以降を推奨します。
「Service Pack」の最新版は、マイクロソフト社のインターネットホームページからダウンロードが可能です。
（http://www.microsoft.com/japan/）

※確認方法については、以下の2通りあります。

◇起動時

WindowsNT4.0を起動させ、しばらくすると画面最上部に以下のメッセージが表示されます。
「Microsoft (R) Windows NT (R) Version 4.0 (Build 1381: Service Pack 3).」の下線部を確認してください。

◇起動中、ログイン後

WindowsNT4.0をサーバーとして使用している場合など、容易に再起動できない場合は、『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「ﾍﾙﾌﾟ」をクリックし、メニュー内の「ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ表示」をクリックしてください。以下のメッセージが表示されます。

「Version 4.0 (Build 1381: Service Pack 3)」の下線部を確認してください。

• モデム部の対応電話回線環境

・本製品は、NTTの加入回線に適合するように設計されています。ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は、NTTの電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本製品をこれらの回線に直接接続すると故障の原因となる場合があります。接続する前に電話装置メーカーや保守業者とご相談ください。

・本製品を接続するためには、モジュラー式のジャックが必要です。ローゼットの場合は変換アダプタまたはモジュラージャック設置工事が必要です。（最寄りのNTTにお問い合わせください。）

・ご使用になる回線がプッシュ回線かダイヤル回線かをご確認ください。（ご使用中の電話機の設定をご確認ください。プッシュ回線の場合は「PB」、ダイヤル回線の場合は「10」または「20」となっています。）

注 意

回線状況により、設定回線速度［特に28800bps以上］より低い速度で接続する場合があります。（ISDN回線などのノイズの少ない回線をご使用ください。）

• LANｱﾀﾞﾌﾟﾀ部の対応ＮＯＳ環境

●日本語Windows95,日本語WindowsNT4.0のネットワーク機能は、以下のクライアント・サーバ型システムのクライアントとしてご利用になれます。

日本語Windows95,日本語WindowsNT4.0/3.5x,NetWareサーバ

●日本語Windows95,日本語WindowsNT4.0のネットワーク機能は、以下のピア・ツー・ピア型ネットワーク構成に組み込むことが可能です。

日本語Windows95,日本語WindowsNT4.0/3.5x

●日本語Windows95,日本語WindowsNT4.0のネットワーク機能は、NDIS3のネットワークプロトコルがご利用になれます。

1.4 取り扱い及び使用上の注意

■ モデム部及びLANｱﾀﾞﾌﾟﾀ部の共通注意事項

- 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を加えないよう、丁寧に取り扱ってください。
- 本製品に対し、以下のことを行わないでください。火災・感電・動作不良の原因になります。
  ・分解や改造などをしないでください。
  ・濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。
- 直射日光のあたる場所や高温多湿になる場所での使用／保管はお避けください。また、薬品が触れる場所や薬品のそばでの使用／保管はお避けください。故障、変色、変形の原因となります。
- 本製品の汚れは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いてふいたりしますと、変形や変色の原因になることがあります。
- 内部に異物（水、コーヒーなど）が入らないようにご注意ください。
- 本製品を開けて内部の部品に触れないでください。故障の原因となります。この場合は保証期間であっても保証できなくなりますので、ご注意ください。
- テレビやラジオなどの強い磁界を発生する装置の近くで使用することはお避けください。本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となります。

■ データ/FAXモデム部の注意事項

・ スタートボタンを押すような擬似ポーリング送信には対応していません。
(JetFAX)

・ 回線状況により、設定回線速度［特に50000bps以上］より低い速度で接続する場合があります。

・ 回線状態によっては通信速度が落ちたりエラーが発生する場合があります。

・ 本製品は法令に基づく承認を受けて製造、出荷されていますので、改造などは絶対に行わないでください。

■ LANアダプタ部の注意事項

・ LANケーブル(RJ-45)をISDN機器(S/T点)に差し込まないでください。故障の原因となります。

■ 保証について

◎ 保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

◎ 保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

1.5 実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスク（以下サポートディスク）は必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。

1 **1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピィディスク(3.5インチ2HD)を3枚用意します。**

2 **サポートディスクを書き込み禁止にします。**

3 **『ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「3.5ｲﾝﾁ FD」を右クリックし「ﾃﾞｨｽｸのｺﾋﾟｰ」を選択します。**

（フロッピィディスクドライブがAドライブの場合の例）

4 **サポートディスクと空きフロッピィディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。**

注 意

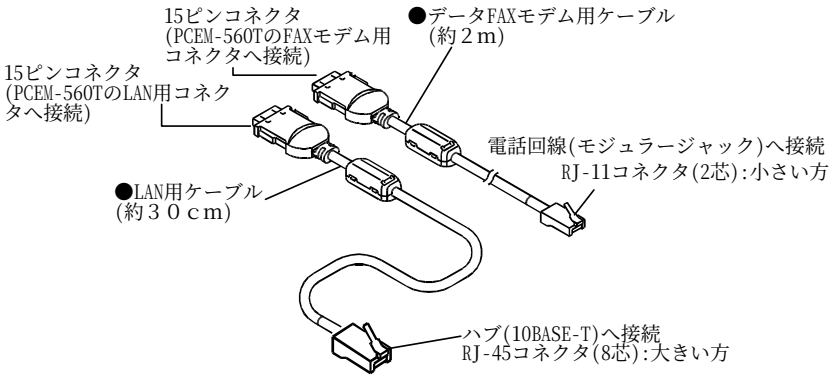
サポートディスクを破損した場合の修理は有償です。
必ずバックアップを取り、サポートディスクは大切に保管してください。

第2章 取り付け方法

この章では、PCEM-560Tと付属のケーブル及び電話回線（FAX/モデム用）やハブ（LAN用）の接続手順について説明します。

2.1 各部の名称

■専用ケーブル



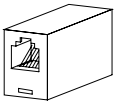
注 意

この2つのケーブルは大変よく似ています。
RJコネクタ（透明な方）の大小をよく確認して識別してください。

■RJ-11及びRJ-45中継コネクタ

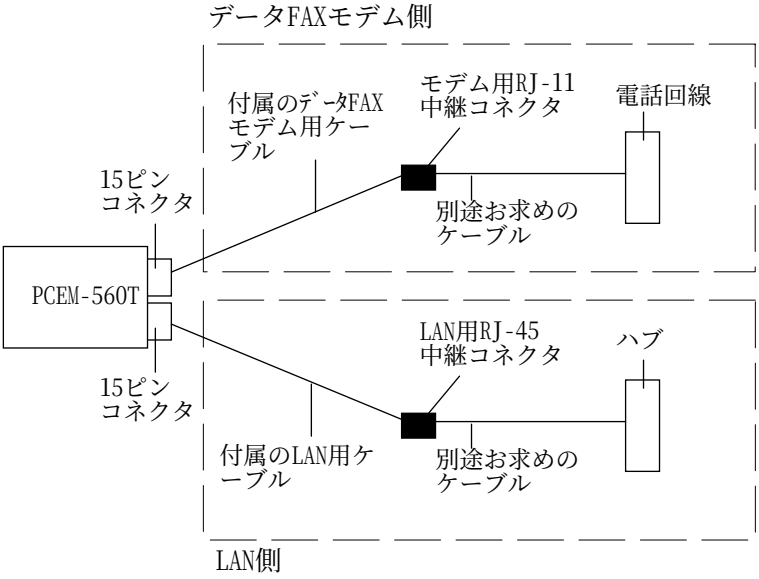
電話回線のモジュラージャックやLAN中継装置（ハブ）のジャックが遠くて、専用ケーブルだけでは届かない場合にお使いください。

中継コネクタに、専用ケーブルのRJコネクタと、別途お買い求めの延長用ケーブルを差し、延長用ケーブルのRJコネクタを、電話回線やハブに接続してください。



『穴の小さい方がRJ-11（グレー）』
『穴の大きい方がRJ-45（アイボリーホワイト）』

接続例）



2.2 取り付け

ここではデータFAXモデムの接続（下記）と、LANアダプタの接続(P15)とに分けて説明しています。片方だけ取り付ける場合は必要な箇所をお読みください。

2.2.1 モデムの接続

• ご用意いただくもの

1. PCEM-560T
2. データFAXモデム用ケーブル（同梱）
3. モジュラージャック接続の一般公衆電話回線（1回線）

• 接続時の注意事項

■ 電気的条件の確認

本モデムはNTTの加入回線に適合するように設計されています。ボタン電話、ビジネスホン、キーテレホン、ホームテレホン、家庭用キーテレホン、PBX（構内交換機）に接続する場合は、NTTの電話回線と電気的条件が異なる可能性があります。本モデムをこれらの回線に直接接続すると故障の原因となる場合があります。接続する前に電話装置メーカーや保守業者とご相談ください。

■ キャッチホンについて

NTTのキャッチホンサービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって正常な通信に支障をきたすことがあります。モデムを接続する回線ではキャッチホンサービスのご利用は避けてください。

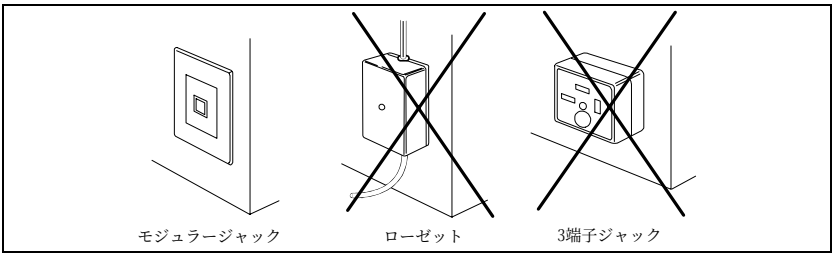
■ モジュラーケーブルについて

モジュラーケーブルが直接接続できない場合は、モジュラーケーブルが使用できるように工事が必要です。最寄りのNTT窓口までお問い合わせください。

• 電話回線の確認

■ 電話機の接続部の確認

通常、電話回線と電話機はモジュラージャック、ローゼット、3端子ジャックで接続されています。本製品を使用するには、電話回線と電話機の接続部分がモジュラージャックであることが必要です。

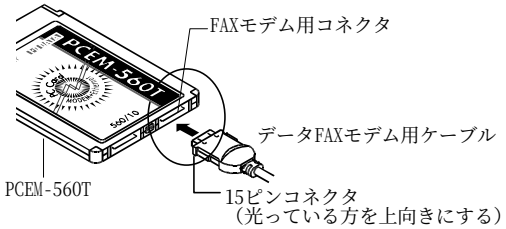


ローゼットや3端子ジャックの場合

モジュラーケーブルを使用できるようにアダプタや工事が必要です。詳細は、お近くのNTTへご相談ください。

• 電話回線との接続

1 **PCEM-560Tのモデム用コネクタと、モデム用ケーブルの15ピンコネクタの向きを合わせ、カチッと音がするまで差し込みます。**



注 意

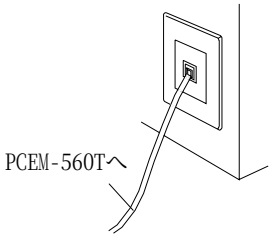
1)付属のモデム用ケーブルとLAN用ケーブルは大変よく似ています。
モデム用ケーブルは小さいRJコネクタがついています。
間違えずに差し込んでください。

2)15ピンコネクタは光っている方を、カードのラベル面側(上向き)にして差し込んでください。

3)15ピンコネクタを抜くときは、コネクタ左右のつまみを内側に押しながら抜いてください。

2 **専用ケーブルのRJ-11コネクタを電話回線のモジュラージャックへしっかりと接続してください**

（モジュラージャックまでの距離が長い場合は、専用モジュラーケーブルと別途ご用意いただいたモジュラーケーブルを付属のRJ-11中継コネクタで繋ぎ、延長してご使用ください。）



以上でモデムの接続は終了です。

ここでは、まだPCカード(PCEM-560T)をパソコン本体に取り付けないでください。

LAN機能をご使用になる場合は［2.2.2　LANアダプタの接続］(次ページ)へお進みください。

モデム機能のみをご使用になる場合は、ご使用になるOSによって、［第3章　日本語Windows95で使用するには］(P17)または［第4章　日本語WindowsNT4.0で使用するには］(P45)へお進みください。

2.2.2 LANアダプタの接続

・ ご用意いただくもの

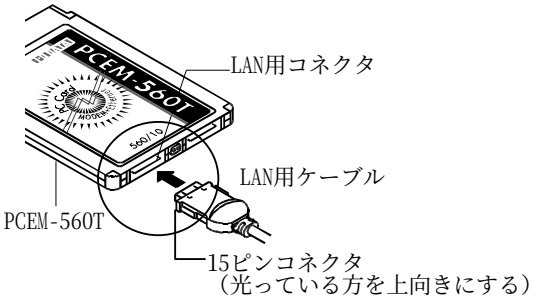
1. PCEM-560T
2. LAN用ケーブル（同梱）
3. LANに正しく接続されているハブ（1ポート）

• 接続時の注意事項

1. 本製品がサポートしている10BASE-Tの規格では、ケーブル長に制限があります。接続にあたっては、ネットワーク管理者とご相談ください。
2. 本製品では、LANネットワークがすでに構築されているという前提で説明します。ネットワークが正しく動作することを、まずご確認ください。

• LANとの接続

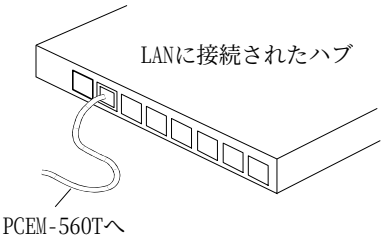
1 PCEM-560TのLAN用コネクタと、LAN用ケーブルの15ピンコネクタの向きを合わせ、カチッと音がするまで差し込みます。



注 意

1)LAN用ケーブルとモデム用ケーブルは大変よく似ています。大きいRJコネクタがついています。間違えずに差し込んでください。
2)15ピンコネクタは光っている方を、カードのラベル面側(上向き)にして差し込んでください。
3)15ピンコネクタを抜くときは、コネクタ左右のつまみを内側に押しながら抜いてください。

2 **専用ケーブルのRJ-45コネクタをハブのポートへしっかりと接続してください。（ハブポートまでの距離が長い場合は、専用ケーブルと別途ご用意いただいたモジュラーケーブルを添付のRJ-45中継コネクタで繋ぎ、延長してご使用ください。）**



注 意

LANケーブル(RJ-45)はISDN機器(S/T点)に差し込まないでください。
故障の原因となります。

以上でLANアダプタの接続は終了です。

ここでは、まだPCカード(PCEM-560T)をパソコン本体に取り付けないでください。

ご使用になるOSによって、【第3章　日本語Windows95で使用するには】(次ページ)または【第4章　日本語WindowsNT4.0で使用するには】(P45)へお進みください。

第3章 日本語Windows95で使用するには

この章では、第2章で取り付けたPCEM-560TをWindows95で使用する場合について説明します。
PCEM-560TをWindows95で使用するには、PCEM-560TのWindows95用のドライバのインストールやネットワーク及びモデムの設定が必要です。この章では、それらの方法について説明します。

3.1 インストール方法

まず、PCEM-560Tをパソコンに装着する前に、以下の【3.1.1】の内容をご確認ください。

3.1.1 インストールの前に

注 意

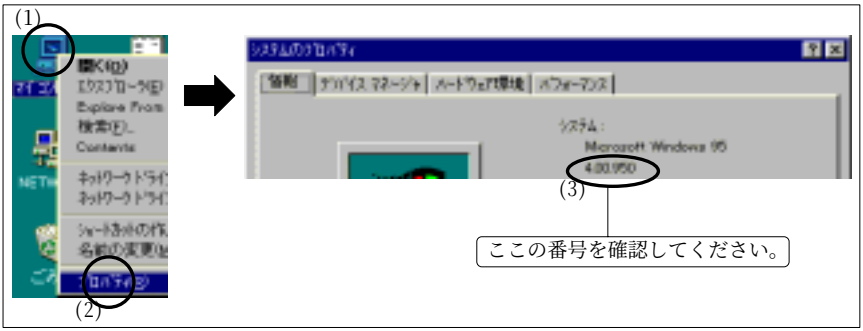
Windows95にインストールしたPCEM-560Tドライバの情報を削除する（アンインストール）場合は、必ず「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスク内のWin95\UNINST.EXEで行ってください。
（アンインストールの詳細は、【3.3 インストールされた情報を削除するには】(P30)を参照してください。）

• Windows95バージョン番号の確認

Windows95のバージョン（4.00.950、4.00.950a、4.00.950 B、4.00.950 C）によってインストール手順の一部が異なります。まず以下の方法でWindows95のバージョンを確認してください。

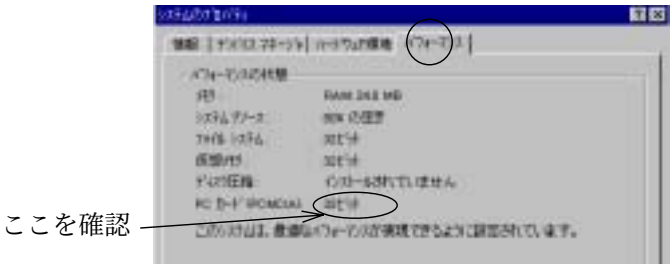
＜確認方法＞

デスクトップ上の「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンにマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンを押し(1)、現れたメニューから「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」を選択します(2)。表示された番号(3)を確認し、メモしてください。



• PCカードのドライバの確認

上記の『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ」タブをクリックし、
「PCｶｰﾄﾞ(PCMCIA)」のドライバが32ビットであることを確認してください。



32ビットになっていない場合は、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンを押して、この処理を終了し、『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の[PCｶｰﾄﾞ(PCMCIA)]アイコンをダブルクリックしてください。PCカードウィザードが起動されますので、画面の指示に従って実行していただくと32ビットに変わります。

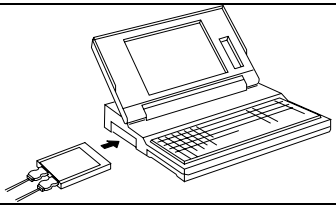
3.1.2 インストール

このインストールでは、LANアダプタ機能とデータFAXモデム機能の両方を、一度にインストールします。

Windows95のバージョンが4.00.950または4.00.950aの場合
以下の「Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合」の欄をお読みください。
Windows95のバージョンが4.00.950 Bまたは4.00.950 Cの場合
以下の「Windows95 4.00.950 B/4.00.950 Cの場合」の欄をお読みください。

1 **Windows95を起動します。**
（PCEM-560Tは、Windows95起動後にPCカードスロットに挿入します。）

2 **PCEM-560Tラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。挿入するスロット、装着方法はご使用のパソコンのマニュアルを参照してください。**

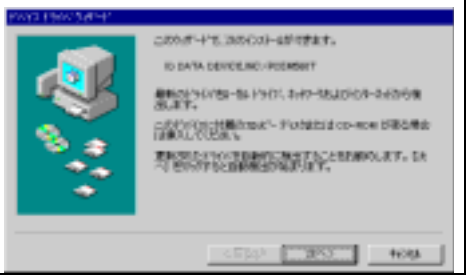


Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合

3 **PCEM-560Tが新しいハードウェアとして認識され、『新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱ』画面が表示されます。**
「ﾊｰﾄﾞｳｪｱの製造元が提供するﾄﾞﾗｲﾊﾞ」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

Windows95 4.00.950 B/4.00.950 Cの場合

3 **PCEM-560Tが新しいハードウェアとして認識され、『ﾃﾞﾊﾞｲｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。**
「PCEM-560Tサポートソフトディスク①」をフロッピィディスクドライブに挿入し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



注 意

インストールが正しく終了した場合、次回からこの画面は表示されません。もし、インストールを行っていないのに、カードを挿入してもこの画面が表示されない場合は、以下の原因が考えられます。
1)PCEM-560TをPCカードスロットに正しく挿入していない
・PCEM-560Tの向きが違う
・PCカードスロットに奥まで挿入していない
2) PCｶｰﾄﾞ(PCMCIA)のドライバが32ビットになっていない
【・ PCカードのドライバの確認】(P18)を参照してください。
3) 既に何らかの形でインストールが完了して、誤認識されている
【3.3 インストールされた情報を削除するには】(P30)を参照し、インストール情報を削除後、再度カードの挿入を行ってください。

Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合

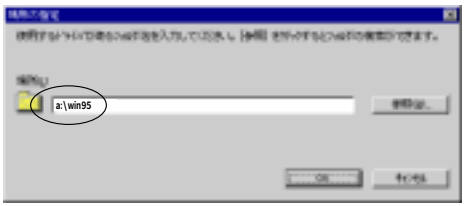
4 **「PCEM-560Tサポートソフト①」をフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィディスクドライブのwin95のパス指定を行い、[OK]ボタンをクリックしてください。**

例) a:\win95 (下線部入力:フロッピィディスクドライブがAドライブの場合)

Windows95 4.00.950 B/4.00.950 Cの場合

4 **下記画面が表示されたら、[場所の指定]ボタンをクリックしてください。**

場所の指定ダイアログが表示されるので、フロッピィディスクドライブのwin95のパス指定を行い、[OK]ボタンをクリックしてください。



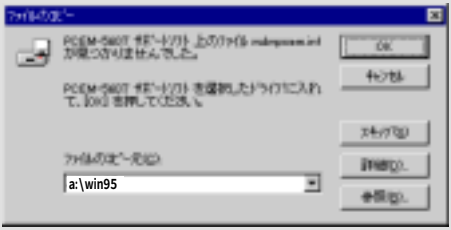
例) a:\win95 (下線部入力:フロッピィディスクドライブがAドライブの場合)

Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合	Windows95 4.00.950 B/4.00.950 Cの場合
5 ファイルのコピーが開始されます。	5 以下の画面が表示されたら[完了]ボタンをクリックしてください。ファイルのコピーを開始します。

6 途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合は、CD-ROMを準備して、
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。また、Windows95プレインストールモデルのパソコンの場合は、「c:\windows\options\cabs」（Windows95のインストール先がCドライブの場合）を指定しても実行可能です。）

注 意

上記のCD-ROM等からのファイルコピーの途中で、「PCEM-560Tｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄ上のﾌｧｲﾙ mdmpcem.inf が見つかりませんでした。」と表示された場合は、サポートソフト内のファイルのコピーが必要です。
下記のように、「PCEM-560Tサポートソフト①」をセットしたフロッピィディスクドライブのwin95のパス指定を行い、[OK]ボタンをクリックしてください。



例）　a:\win95（ﾌﾛｯﾋﾟｨﾃﾞｨｽｸﾄﾞﾗｲﾌﾞがAドライブの場合）

7 **必要なファイルがコピーされ、モデムの設定になります。**
『所在地情報』画面が表示された場合は、必要な情報を入力します。
「ﾀﾞｲﾔﾙ方法」は、ご使用の電話回線に合わせて選択してください。
プッシュ回線の場合　→　ﾄｰﾝ
ダイヤル回線の場合　→　ﾊﾟﾙｽ
設定後、[OK] ボタンをクリックしてください。

8 **[完了] ボタンをクリックしてください。**

9 **PCEM-560Tを装着したまま、「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスクを抜いて、Windows95を再起動してください。**

以上でインストールは終了です。
次に、正常にインストールされたかを確認するため、【3.1.3 インストール終了後の確認】(次ページ)へお進みください。

注 意

Windows95使用中にPCカードの動作を終了しないで、PCEM-560Tを PCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。
PCEM-560TをPCカードスロットから取り外す際には、【3.2 Windows95を使用中に取り外す場合の注意事項】(P28)を参照してください。

3.1.3 インストール終了後の確認

ここではPCEM-560TがWindows95で正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。インストール終了(再起動)後、必ず以下の事を確認してください。

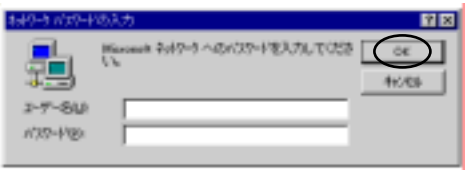
注 意

［使用上のご注意］
以下の各設定の確認後、PCEM-560Tを使用する場合は、パソコン起動前にPCEM-560TをPCカードスロットに挿入した後、パソコンを起動してください。

• LANアダプタ機能の確認

ここでは、インストールしたLAN機能がWindows95に正しく認識されているかどうかを確認します。

1 **パソコンの再起動中に、以下のログイン画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。**
ユーザー名とパスワードは、ネットワーク管理者にお聞きください。



2 **起動後、デスクトップ上に、「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンが追加されたことを確認してください。**

参 考

Windows95では、パスワード管理が一元化されています。
ユーザーID、パスワードを利用するネットワークで同一に設定してあれば、１つのネットワークにログインすると、他のネットワークにユーザIDとパスワードの入力なしでログインできます。

• モデム機能の確認

ここでは、モデム機能の設定と、モデム機能がWindows95に正しく認識されたかどうかの確認を行います。専用ケーブルが正しく電話回線のモジュラージャックに接続されていることを確認してください。

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ﾓﾃﾞﾑ」アイコンをダブルクリックし、「I-O DATA PCEM-560T」があることを確認してください。**

注 意

正しく組み込まれていない場合は、名称が「-O DATA PCEM-560T」となったり、モデムの検出結果にて「応答なし」となったりします。

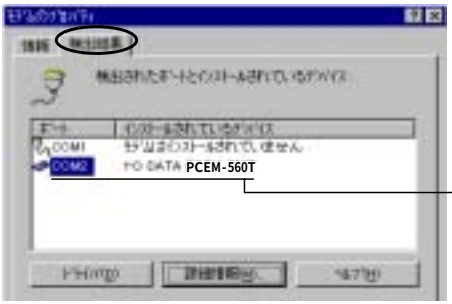
2 **「I-O DATA PCEM-560T」が選択されていることを確認し、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックし、[最高速度]を通信可能な、一番速い速度（115200bpsが望ましい）に設定して[OK]ボタンをクリックしてください。**

「115200」に設定すると最大パフォーマンスが引き出せます。

注 意

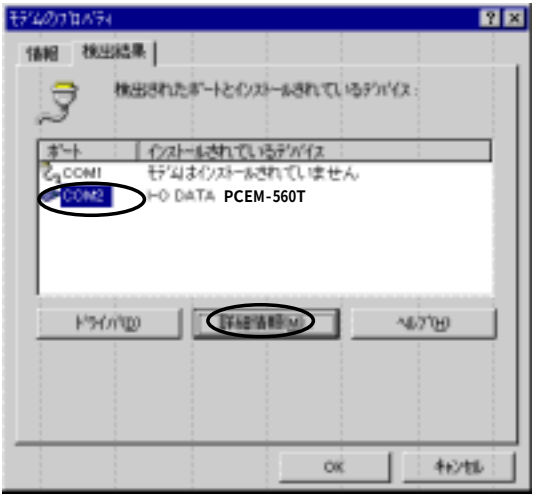
ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。

3 **「ﾓﾃﾞﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」画面の「検出結果」タブをクリックし、「I-O DATA PCEM-560T」があることを確認してください。**



ここを確認
（PCEM-560Tが「COMポート2」に割り当てられている例）
パソコンの環境により、COM3やCOM4に割り当てられる場合があります。

4 **「PCEM-560T」がインストールされているCOMポート（下記の例ではCOM2）を選び、[詳細情報]ボタンを押してください。**



5 **「ﾓﾃﾞﾑと通信しています。」と表示され、しばらくして下記のような通信結果が表示されます。**

注 意

モデムの検出結果の詳細情報では、最高速度は「115K ﾎﾞｰ」で表示されますが、実際はモデムの最高速度で指定した速度で接続されています。

6 **これらの手順が正常に行えれば、PCEM-560Tのモデム機能は正常に動作しているといえます。**

正常に行うことができなかった場合は〔付録1 困った時には〕(P62)を参照してください。

[OK]ボタンをクリックして『詳細情報』画面を閉じます。同様にして、

『ﾓﾃﾞﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』、『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』画面を閉じてください。

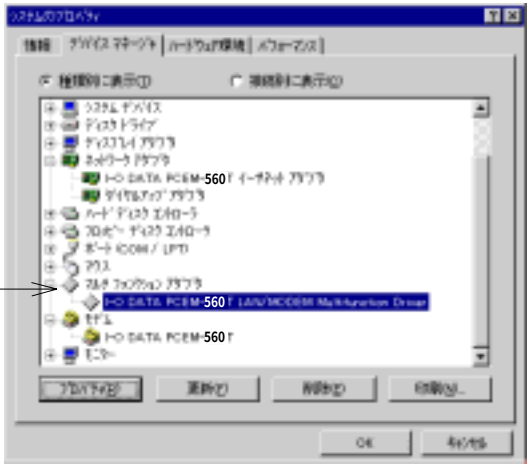
• インストールしたドライバの確認

ここでは、インストールしたPCEM-560Tドライバが Windows95に正しく認識されているかどうかを確認します。

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ｼｽﾃﾑ」アイコンをダブルクリックします。**

『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽ　ﾏﾈｰｼﾞｬ」タブをクリックします。

2 **「ﾏﾙﾁﾌｧﾝｸｼｮﾝｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をダブルクリックして、「I-O DATA PCEM-560T LAN/MODEM Multifunction Driver」の先頭に、？マークや！マークが付いていないことを確認してください。（確認1）**



3 **「I-O DATA PCEM-560T LAN/MODEM Multifunction Driver」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックし、「ﾘｿｰｽ」タブをクリックして、競合するデバイスがないことを確認してください。（確認2）**

参照

？マークや！マークがついていたり、デバイスが競合していた場合は、【付録1 困った時には】(P62)を参照してください。

3.2 Windows95を使用中に取り外す場合の注意事項

Windows95を使用中でもPCEM-560Tを取り外すことができます。

ただし、PCカードの動作を終了せずにPCEM-560TをPCカードスロットから取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

以下のいずれかの方法で取り外してください。

・「・ PCEM-560Tの取り外し方法－その1」(下記)

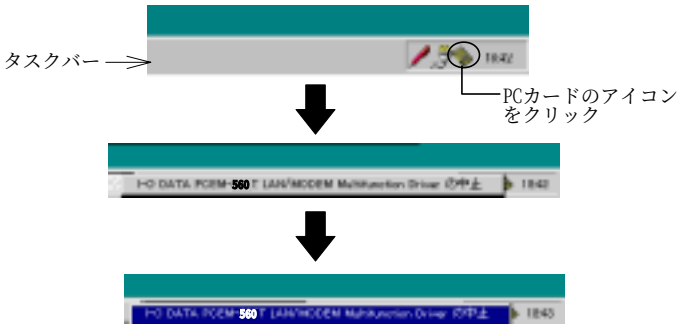
・「・ PCEM-560Tの取り外し方法－その2」(次ページ)

PCEM-560Tを取り外す場合は、PCEM-560Tを使用しているLANのネットワークを使用していない(「他のネットワークにアクセスしていない」及び「他のネットワークからアクセスされていない」)事を確認してから取り外してください。

取り外し作業を行うと、実際にPCEM-560Tを抜かなくても、PCカードの動作は終了したとみなされ、PCEM-560Tは使えなくなります。再度使いたいときは、一旦カードを抜いてから、再び差し込んでください。

• PCEM-560Tの取り外し方法－その1

1 タスクバー上にある画面右下のPCカードのアイコンをクリックし、「I-O DATA PCEM-560T LAN/MODEM Multifunction Driverの中止」を選択後、クリックします。



2 次の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

3 PCEM-560TをPCカードスロットから取り外してください。
次に使用したいときはPCEM-560TをPCカードスロットに挿入するだけです。

• PCEM-560Tの取り外し方法－その２

1 『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の[PCｶｰﾄﾞ(PCMCIA)]アイコンをダブルクリックします。
「I-O DATA PCEM-560T LAN/MODEM Multifunction Driver」を選択して、[終了]ボタンをクリックします。

2 次の画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

3 PCEM-560TをPCカードスロットから取り外してください。
次に使用したいときはPCEM-560TをPCカードスロットに挿入するだけです。

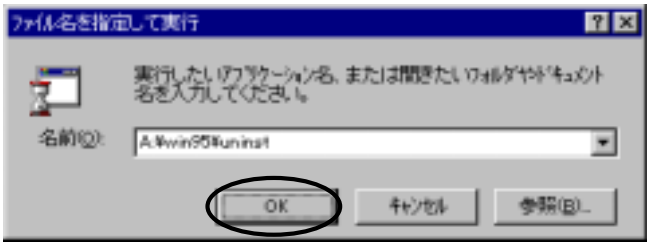
3.3 インストールされた情報を削除するには

ここでは、Windows95にインストールされたPCEM-560Tドライバの情報を削除する（アンインストール）方法を説明します。
『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』→『ｼｽﾃﾑ』→『ﾃﾞﾊﾞｲｽﾏﾈｰｼﾞｬ』にて正常に認識されない場合（[・ インストールしたドライバの確認] (P27)参照）や、動作がおかしい場合は、下記内容を実行してインストール情報を削除してください。
次に［3.1.2 インストール］(P19)を参照の上、もう一度インストールし直してください。

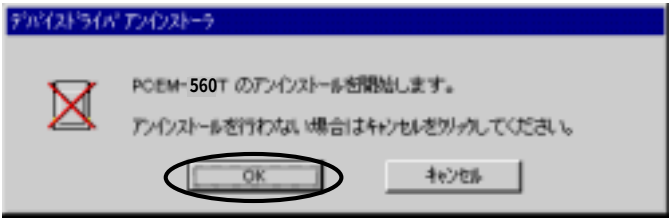
1 PCEM-560TをPCカードスロットから取り外します。
（［3.2 Windows95を使用中に取り外す場合の注意事項］(P28)を参照）

2 「PCEM-560Tｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄ①」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入します。

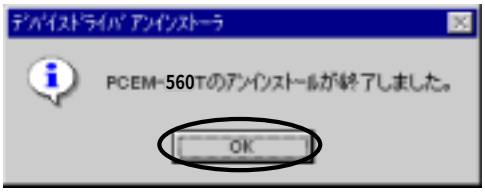
3 『ｽﾀｰﾄ』-『ﾌｧｲﾙ名を指定して実行』を起動して、「名前」に以下のように入力します。
例） A:\win95\uninst (フロッピィディスクドライブがAドライブの場合)
入力後、[OK]ボタンをクリックします。



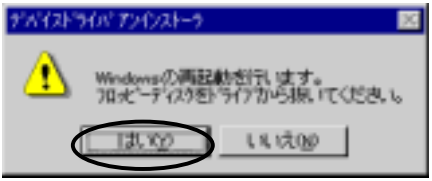
4 『ﾃﾞﾊﾞｲｽﾄﾞﾗｲﾊﾞ ｱﾝｲﾝｽﾄｰﾗ』画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。



5 以下の画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックしてください。



6 以下の画面が表示されます。「PCEM-560Tｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄ①」ディスクをフロッピィディスクドライブから抜き、[はい]ボタンをクリックしてください。



以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

3.4 インターネットへの接続(モデム)

インターネットを使用するには、商用プロバイダとダイヤルアップIP接続の契約をまず行ってください。
契約後、本ページ以降でダイヤルアップネットワーク（インターネットへ接続するソフトウェア）及びTCP/IP（ネットワークプロトコル）のインストール及び設定でインターネットへ接続できます。本製品には、ダイヤルアップネットワークの設定が簡単にできるユーティリティDNSETを添付しています。ダイヤルアップネットワーク及びTCP/IPをインストール後、DNSETでダイヤルアップネットワークの設定を行ってください。

3.4.1　ダイヤルアップネットワークの確認

『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』→『ｱｸｾｻﾘ』の中に「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」があることを確認してください。
あれば［3.4.2 TCP/IPの確認］(P35)へ
なければ、以下の［・　ダイヤルアップネットワークのインストール］を行ってください。

• ダイヤルアップネットワークのインストール

ダイヤルアップネットワークはモデムを使ってパソコンとインターネットを接続します。ブラウザやインターネットメールを起動するときに、必ず必要になるソフトウェアです。

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
［Windows ﾌｧｲﾙ］タブをクリックし、「ﾌｧｲﾙの種類」で「通信」を選択して［詳細］ボタンをクリックしてください。

注 意

［Windows ﾌｧｲﾙ］タブをクリックしたときに、表示が切り替わるまでに時間がかかる場合があります。Windows95が、既にインストールされているファイルの確認を行っているためで、異常ではありません。

2 **［ﾌｧｲﾙの種類］で［ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟ ﾈｯﾄﾜｰｸ］をチェックして［OK］をクリックしてください。**

『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面に戻りますので、さらに［OK］ボタンをクリックしてください。

3 **必要なファイルのコピーを行います。Windows95のCD-ROMまたはフロッピィディスクをセットして、画面の指示に従ってコピーを行ってください。**

コピーの途中で、コンピュータ名とワークグループを聞いてきますので、入力して［閉じる］ボタンをクリックしてください。

参 考

1)「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」と「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」は他のコンピュータとのネットワークを行うときの重要な設定ですが、インターネットを使用する時には特にこの設定は使用されませんので、適当な文字列を入力しても問題ありません。

2)「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」には、なにも入力しなくても問題ありません。

4 **コピーが終了すると、下の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。**

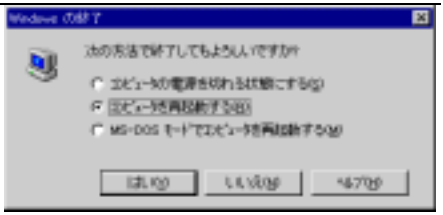
注 意

インターネットへのアクセスには［ｹｰﾌﾞﾙ接続］は必要ありませんので、インストールする必要はありません。

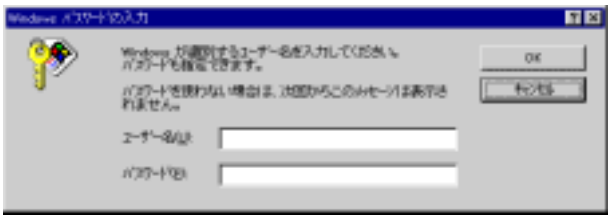
5 **Windows95を再起動します。**

『ｽﾀｰﾄ』メニューから「Windows の終了」を選択してください。

『Windows の終了』画面の「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀを再起動する」を選択して［はい］ボタンをクリックします。



6 **Windows95が再起動すると、下の画面が表示されます。「ﾕｰｻﾞｰ名」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力して[OK]ボタンをクリックしてください。**



3.4.2　TCP/IPの確認

『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックし、「TCP/IP」があることを確認してください。
あれば次ページの〔3.4.3 ダイヤルアップネットワークの設定〕へ
なければ、以下の〔・ TCP/IPの追加〕を行ってください。

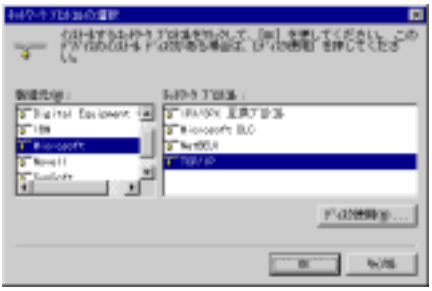
TCP/IPがあることを確認する。

- **TCP/IPの追加**

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ　ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、〔ﾈｯﾄﾜｰｸ〕アイコンをダブルクリックしてください。
右のような画面が表示されます。
〔追加〕ボタンをクリックしてください。
（表示されるネットワーク構成はご使用環境により異なります。）

2 「ﾌﾟﾛﾄｺﾙ」を選択して〔追加〕ボタンをクリックしてください。

3 〔製造元〕は〔Microsoft〕を選択します。
〔ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾌﾟﾛﾄｺﾙ〕は〔TCP/IP〕を選択して、〔OK〕ボタンをクリックしてください。
後は画面の指示に従ってください。



3.4.3　ダイヤルアップネットワークの設定

ダイヤルアップネットワークとTCP/IPの確認後、次にダイヤルアップネットワークの設定が必要です。

本製品には、ダイヤルアップネットワークの設定が簡単にできるユーティリティDNSETを添付しています。

DNSETは、サポートソフトディスクから起動します。

1 「PCEM-560Tサポートソフト②」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入してください。

『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌｧｲﾙ名を指定して実行』をクリックし、

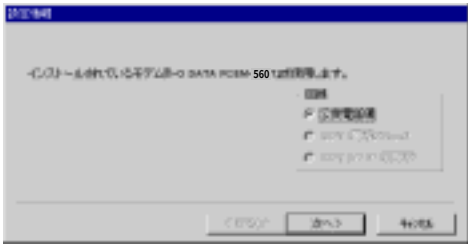
A:\DNSET\DNSET.EXE

（フロッピィディスクドライブがAドライブの場合）

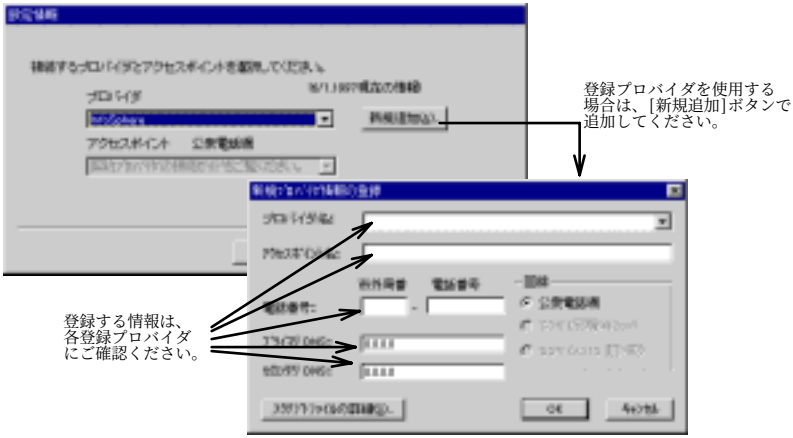
と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。

2 下記の画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

3 [次へ]ボタンをクリックしてください。[回線]は「公衆電話網」を選択してください。モデムを選択できる画面の場合は、「I-O DATA PCEM-560T」を選択してください。



4 **接続するプロバイダとアクセスポイントを選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。（登録プロバイダを使用する場合は、各プロバイダと契約し[新規追加]でアクセスポイントを追加してください。）**



5 **[完了]ボタンをクリックしてください。設定を開始します。**

6 **『設定完了』画面が表示されるので[OK]ボタンをクリックしてください。**

以上で設定は終了です。

『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックすると、設定した新規プロバイダのアイコンが追加されています。

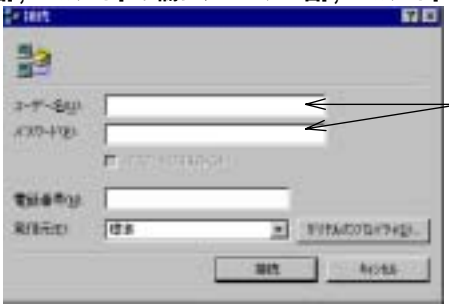
3.4.4　インターネットへ接続する

ダイヤルアップネットワークの設定ができたら、インターネットへ接続してみましょう。

PCEM-560Tのモデム機能のインストールおよびインストール終了後の確認が完了していることを確認してください。

1 **先程追加した、ダイヤルアップネットワークのアイコンをダブルクリックします。**

2 **「ﾕｰｻﾞｰ名」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の欄に、「ﾕｰｻﾞｰ名」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力してください。**



注 意

「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は「*****」と表示され、画面上で確認できませんのでアルファベットの大文字・小文字などを間違えないように特に注意してください。

3 **[接続]ボタンを押すと、指定したプロバイダに接続します。**

この後、ブラウザを起動してWebページを閲覧したり、インターネットメールの送受信ができます。

4 **インターネットへのアクセスが終了したら、ダイヤルアップネットワークの[切断]ボタンを押してください。**

これで、電話回線が切断されます。

注 意

インターネットへのアクセスを終了したときは、必ずインターネットとの接続が切れ、モデムが電話回線を切断したことを確認してください。

3.4.5　よく利用するホームページがある場合

本製品には、よく利用するホームページを自動的にダウンロードするユーティリティ「Getweb!」を添付しています。ダウンロード後、後でゆっくりオフラインでブラウズすることができます。
詳細は、「Getweb!」ディスク内の、Readmeまたはヘルプファイルを参照してください。

3 5 FAXの送受信(モデム)

本製品には、FAXの送受信用のソフトウェア JetFAX を付属しています。
ただし、JetFAXはWindows95専用です。WindowsNT4.0では動作しません。

JetFAXをインストールすれば、使い慣れたWindows95アプリケーションでデータを作り、そのままダイレクトにFAX送信できます。
手間要らずの高品位イメージ送信、ワンクリックでできる受信待機、複数の送信手順を一度に指定できるスケジュール送信、送付案内書の自動添付など、使いやすい高機能が満載です。

JetFAXは、「PCEM-560Tサポートソフト②」ディスクでインストールを行います。インストール方法その他詳細は、別冊の「JetFAX操作ガイド」を参照してください。

3.6 ネットワークシステムへの接続（LAN）

【3.1.3】(P23)の確認がすべて正常ならば、Windows95でPCEM-560TのLAN機能が使用できます。この後、Windows95同士のピア・ツー・ピア接続や各種ネットワークシステム(NetWare,WindowsNT,LANtastic for Windows95)のクライアントとして使用する場合は、必要に応じて以下を参照してください。

● **ピア・ツー・ピア接続の設定**

別冊の『PLANTシリーズ ネットワーク機能活用ガイド』の【1.2 ピア・ツー・ピア接続の設定】を参照してください。

● **各種ネットワークシステムへの接続**

別冊の『PLANTシリーズ ネットワーク機能活用ガイド』の【1.3 各種ネットワークシステムへの接続】を参照してください。

3 7 便利なツールの使い方

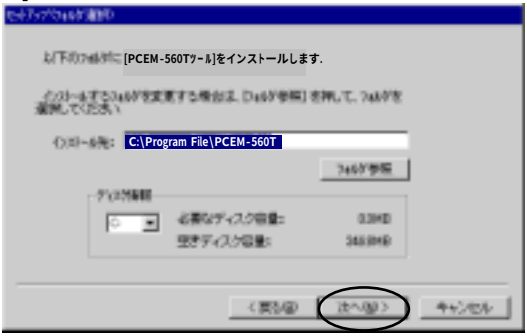
本製品には、Windows95用のツールとして以下があります。
必要に応じてインストールしてください。
回線モニター (回線状況の監視モニター)

1 インストール

1 **「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌｧｲﾙ名を指定して実行』をクリックして、下記のように入力してください。**
例) a:\win95\setup.exe(フロッピィディスクドライブがaドライブの場合)

2 **[ｾｯﾄｱｯﾌﾟ]画面が表示されたら、[次へ]ボタンをクリックしてください。**

3 **セットアップするフォルダ名やドライブ名がこれでいい時は、[次へ]ボタンをクリックします。[ﾌｫﾙﾀﾞ参照]ボタンは、セットアップ先が違う場合に参照してください。**



4 **インストール作業が終了し、『ｾｯﾄｱｯﾌﾟ完了』画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックし、セットアップを終了します。**

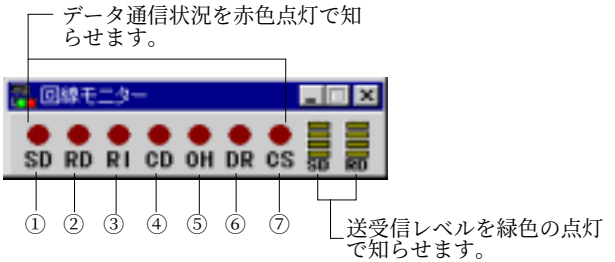
2 回線モニターの使用方法

「回線モニター」は、モデムを使用する前に起動しておきます。通信が始まると、データ通信状況をインジケータランプでお知らせします。

注 意

「回線モニター」を使用する場合は、必ず通信ソフトを起動する前に起動してください。通信ソフトの後に起動させても動作しません。

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』→『PCEM-560Tﾂｰﾙ』→『回線ﾓﾆﾀｰ』をクリックしてください。下記の画面が表示されます。**



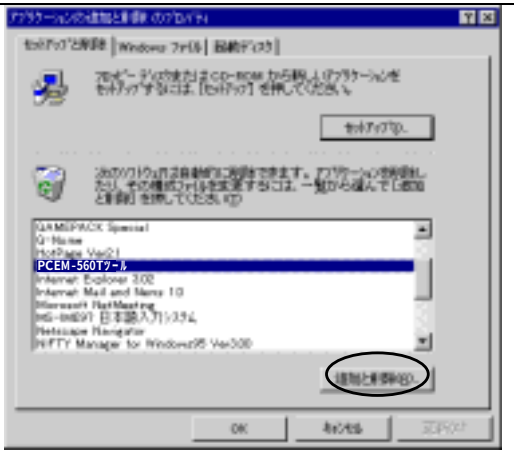
番号	信号	機能
①	SD	データ送信中 (Send Data)
②	RD	データ受信中 (Receive Data)
③	RI	RING検出 (Ring Indicator)
④	CD	キャリア検出 (Carrier Detect)
⑤	OH	オフフック (Off Hook)
⑥	DR	データセットレディ (Data set Ready)
⑦	CS	データ送信許可 (Clear to Send)

❸ アンインストール

インストールした「回線モニター」を削除（アンインストール）する場合は、以下の手順で削除できます。

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除』アイコンをダブルクリックしてください。**

2 **「ｾｯﾄｱｯﾌﾟと削除」タブにて、「PCEM-560Tﾂｰﾙ」を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。**



3 **「ｱﾝｲﾝｽﾄｰﾙ」画面では、「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィディスクドライブのwin95フォルダ内のsetup.exeを設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。**

例） a:\win95\setup.exe

（フロッピィディスクドライブが a ドライブの場合、下線部入力）

4 **[次へ]ボタンをクリックします。**

5 **[完了]ボタンをクリックします。**

以上で「回線モニター」の削除は終了です。

第4章 日本語WindowsNT4.0で使用するには

この章では、日本語WindowsNT4.0でPCEM-560Tを使用する場合のセットアップ方法について説明します。

4.1 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ

4.1.1 ドライバのインストール

注 意

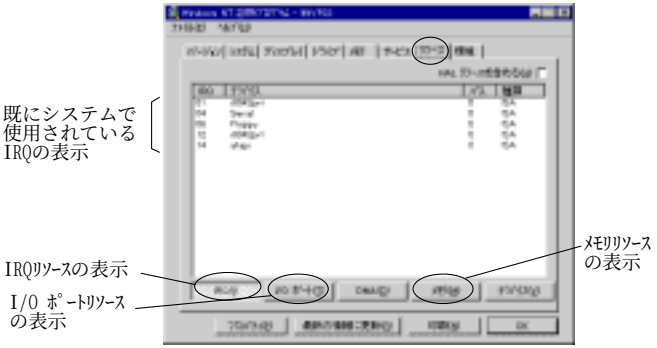
1)WindowsNT4.0の使用中は、カードを抜き挿しできません。必ず、WindowsNT4.0を終了し、電源を切った状態で抜き差しを行ってください。
2)WindowsNT4.0を新規でインストールする場合は、必ずPCEM-560TはPCカードスロットから抜いた状態でインストールしてください。

まず、PCEM-560Tをカードスロットから抜きます。WindowsNT4.0のネットワークの設定を既に終了している場合はアダプタの追加のみの手順となります。アダプタの追加のみの場合は、手順番号が反転している項目(例:1)のみを行ってください。

1 ネットワーク接続したPCEM-560Tを接続後、WindowsNT4.0を起動します。

• 空きリソースの確認

2 **まず、PCEM-560Tが使用できるリソース（I/O ﾎﾟｰﾄ、割り込み,ﾒﾓﾘ領域）を確認するために『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』→『管理ﾂｰﾙ』の「WindowsNT 診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」→「ﾘｿｰｽ」タブを開いて、空いている（使用していない）リソースを確認します。確認終了後にWindowsNT4.0を終了します。**



• ドライバのインストール

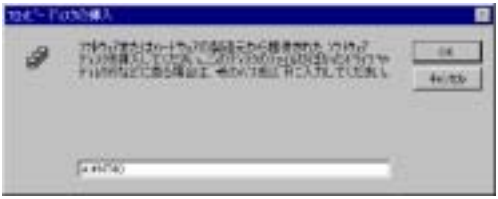
3 **次に、PCEM-560Tをカードスロットに挿し、WindowsNT4.0を起動します。**
『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、[ﾈｯﾄﾜｰｸ]アイコンをダブルクリックして開きます。別のネットワークカード等がインストールされている場合は、[ｱﾀﾞﾌﾟﾀ]タブをクリックして、[追加]ボタンをクリックしてください。(ネットワークがインストールされていない場合は、[Windows NT ネットワークがインストールされていません。インストールしますか ?]と表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。)

4 『ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面で、「ﾈｯﾄﾜｰｸに接続」がチェックされている事を確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。

5 検索の画面が表示されます。[一覧から選択]ボタンをクリックしてください。

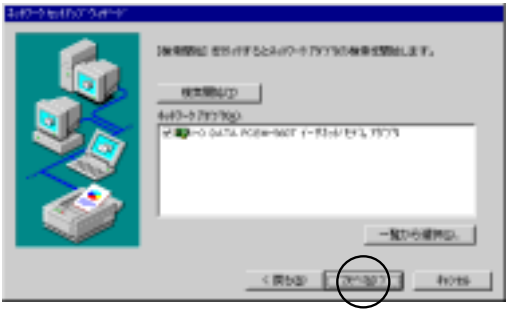
6 アダプター一覧が表示されます。右下の[ﾃﾞｨｽｸ使用]ボタンをクリックしてください。

7 『ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸの挿入』画面が表示されます。
「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入します。フロッピィディスクドライブがAの場合は「A:\NT40」と入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。



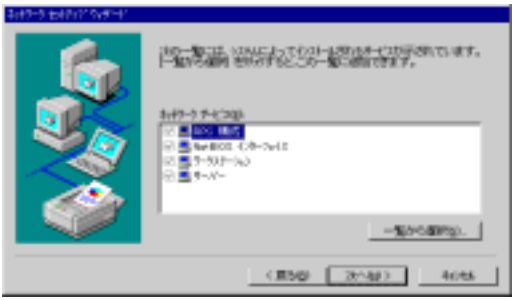
8 『OEM　ｵﾌﾟｼｮﾝの選択』画面では、ご使用の製品名をクリックし、[OK]ボタンをクリックしてください。

9 「I-O DATA PCEM-560T　ｲｰｻﾈｯﾄ/ﾓﾃﾞﾑｱﾀﾞﾌﾟﾀ」のチェックボックスがチェックされているのを確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。



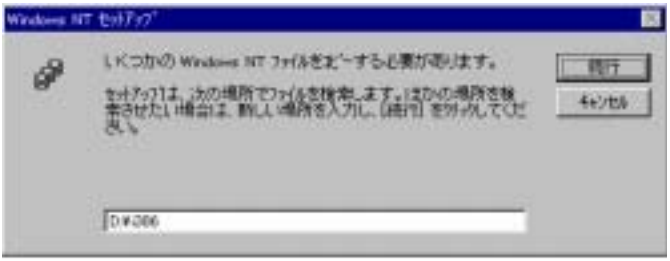
10 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛﾄｺﾙ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

11 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



12 「選択されたﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄとｼｽﾃﾑに必要なﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄをｲﾝｽﾄｰﾙします。.....」と表示されますので、[次へ]ボタン をクリックし、それぞれのコンポーネントを設定してください。設定の詳細については、WindowsNT4.0の取扱説明書をご覧になるか、またはネットワーク管理者にご相談ください。

13 「いくつかのWindows NTﾌｧｲﾙをｺﾋﾟｰする必要があります」と表示されます。
WindowsNTのCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合は
「D:\i386」(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
PC-9800シリーズの場合は　「D:\PC98」(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。



(例は、PC98-NXシリーズ及びDOS/Vマシンの場合)

14 リソース設定の画面が表示されます。
手順2で確認した空いている(使用していない)リソース(IRQなど)を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

15 **ﾈｯﾄﾜｰｸのﾊﾞｲﾝﾄﾞを設定し、[次へ]ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸしてください。**

16 **「ﾈｯﾄﾜｰｸを起動する準備が整いました。」と表示されますので、[次へ]ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸしてください。**

17 **「ﾄﾞﾒｲﾝ」または「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」を設定し、[次へ]ﾎﾞﾀﾝをｸﾘｯｸしてください。**

18 **「このｺﾝﾋﾟｭｰﾀにﾈｯﾄﾜｰｸがｲﾝｽﾄｰﾙされました。.....再起動しなければなりません。」と表示されます。[完了]ﾎﾞﾀﾝを押して、再起動してください。ｻｰﾋﾞｽﾊﾟｯｸを使用している場合、再起動せずにｻｰﾋﾞｽﾊﾟｯｸを再ｲﾝｽﾄｰﾙし、再起動してください。**

注 意

WindowsNT4.0の使用中にカードの抜き差しはできません。
必ず、WindowsNT4.0を終了し、電源を切った状態で抜き差しを行ってください。

4.1.2 インストール終了後の確認

ここではPCEM-560TがWindowsNT4.0で正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。インストール終了後、必ず以下の事を確認してください。

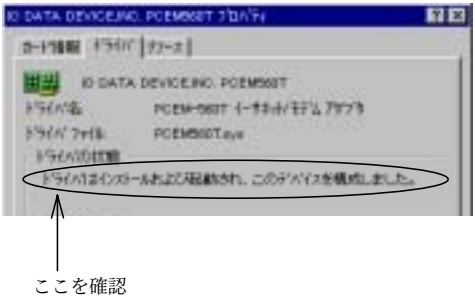
確認1

起動時に以下のようなエラーが表示されない事を確認してください。

確認2

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、『PCｶｰﾄﾞ』アイコンをダブルクリックします。**
「IO DATA DEVICE,INC. LAN MODEM PCEM560T」を選択し、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。

2 **「ﾄﾞﾗｲﾊﾞ」タブを選択し、「ﾄﾞﾗｲﾊﾞの状態」が「ﾄﾞﾗｲﾊﾞはｲﾝｽﾄｰﾙおよび起動され、このﾃﾞﾊﾞｲｽを構成しました。」になっていることを確認してください。**

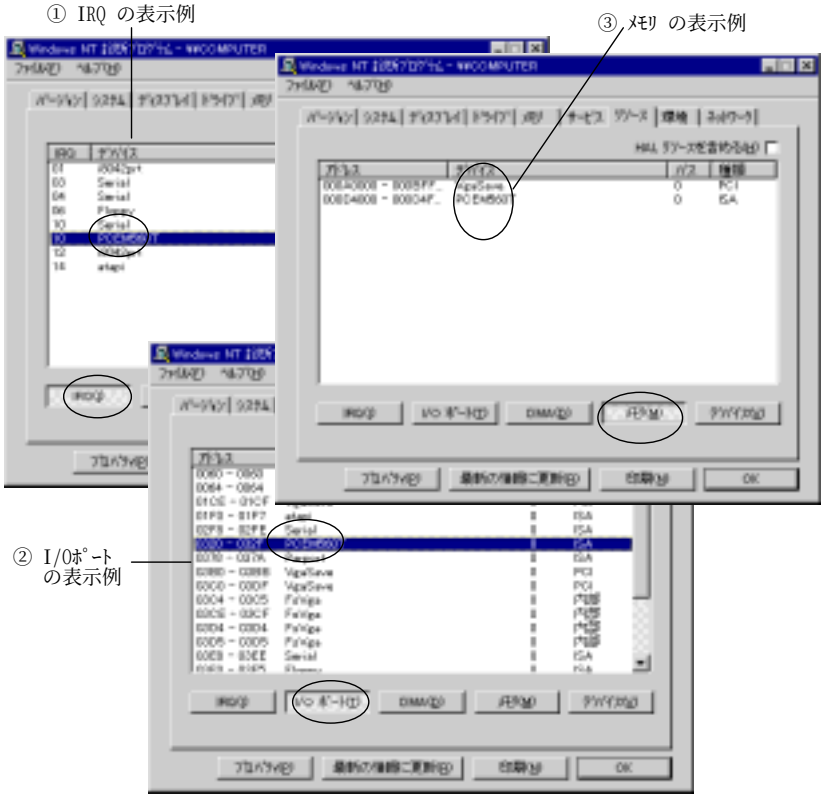


ここを確認

確認３

『ｽﾀｰﾄ』→『ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』→『管理ﾂｰﾙ』をクリックし、『Windows NT診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』アイコンをダブルクリックして『Windows NT診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ』を起動します。

「ﾘｿｰｽ」タブのIRQ(以下の①画面)、I/Oポート(以下の②画面)でデバイス名「PCEM560T」と「Serial」(PC-9821シリーズの場合は「Srialcrd」)、メモリ(以下の③画面)で「PCEM560T」を確認してください。



注 意

WindowsNT4.0で、『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』→『ﾈｯﾄﾜｰｸ』の「ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」タブでの「PCEM-560T」のプロパティは現在のリソースを反映していません。リソースを確認する場合は上記「確認３」で確認してください。

4.2 インターネットへの接続(モデム)

ここでは、日本語WindowsNT4.0でのPCEM-560Tの設定（ドライバのインストール）及びインターネットを使用するまでの設定について説明します。
インターネットを使用するには、商用プロバイダとダイヤルアップIP接続の契約をまず行ってください。契約後、本ページ以降でWindowsNT4.0の「ﾘﾓｰﾄｱｸｾｽｻｰﾋﾞｽ」、「TCP/IP」及び「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」の設定でインターネットへ接続できます。
【4.2.1 モデム機能のインストール】(次ページ)で、「PCEM-560T」のモデム機能のインストール及び「ﾘﾓｰﾄｱｸｾｽｻｰﾋﾞｽ」、「TCP/IP」の設定を行い、
【4.2.2 インターネットに接続するまでの設定】(P58)で、ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸの設定を行い、
【4.2.3 インターネットへの接続】(P60)でインターネットサービスに接続するまでを説明します。

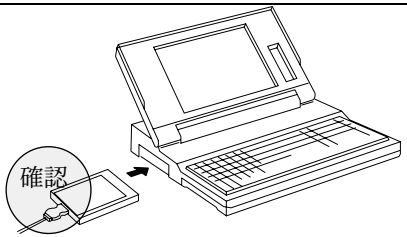
注 意

1)CardDockシリーズは、WindowsNT4.0には対応しておりませんので、CardDockシリーズを使って、PCEM-560Tをご利用いただくことはできません。
2)以前に他のモデムを使用していて、本製品を同一のCOMポートで使用する場合は、以前のモデムのドライバは削除してから本製品のドライバをインストールしてください。
（削除方法は、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾓﾃﾞﾑ」アイコンをダブルクリックし、「ﾓﾃﾞﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」画面の[情報]タブで"以前に使用していたモデム"を選択後、[削除]ボタンをクリックしてください。）

4.2.1 モデム機能のインストール

1 パソコンおよび周辺機器の電源を切ります。

2 電話回線（モジュラージャック）に接続したPCEM-560Tをパソコンに接続後、パソコン（WindowsNT4.0）を起動してください。



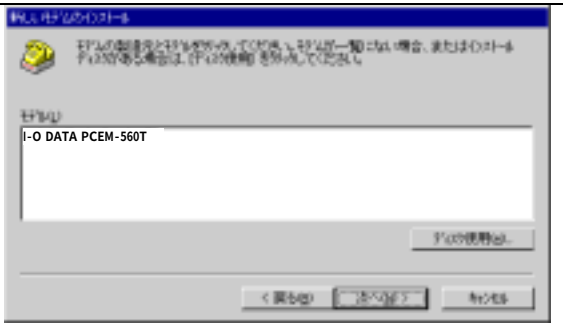
注 意

WindowsNT4.0の使用中にカードの抜き差しはできません。
必ず、WindowsNT4.0を終了し、電源を切った状態で抜き差しを行ってください。

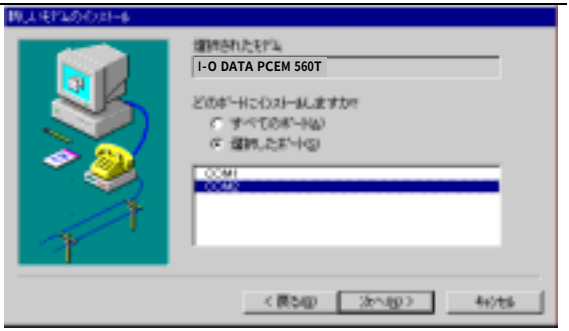
3 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾓﾃﾞﾑ」アイコンをダブルクリックしてください。右の画面が表示されます。（既に他のモデムがインストールされている場合は、[追加]ボタンをクリックすれば以下の画面が表示されます。）「ﾓﾃﾞﾑを一覧から選択する」

4 画面が変わったら、[ﾃﾞｨｽｸ使用]ボタンをクリックしてください。
『ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸからｲﾝｽﾄｰﾙ』画面が表示されますので、「PCEM-560Tｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄ①」をフロッピィディスクドライブに挿入し、「a:\nt40」（下線部入力：フロッピィディスクドライブがAドライブの場合）と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。

5 「ﾓﾃﾞﾙ」欄に「I-O DATA PCEM-560T」と表示されているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



6 新しいCOMが追加されているので、そのCOMを選択して[次へ]ボタンをクリックしてください。（お使いのパソコンによってCOM番号は異なりますが、例の場合は、「COM2」を選択。）



注意

追加されたCOMポートがわからない場合は、一旦[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンで組み込みを中止し、WindowsNT4.0を終了し、本カードを取り外してください。取り外し後、WindowsNTを起動し、『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ」で既存のCOMポートを確認してください。

7 初めてモデムをインストールした場合、右の画面が表示されます。
「市外局番」,「外線発信番号」,「ﾀﾞｲﾔﾙ方法」を設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

8 **モデムが正常にセットアップされたことを知らせる画面が表示されますので、[完了]ボタンをクリックしてください。**

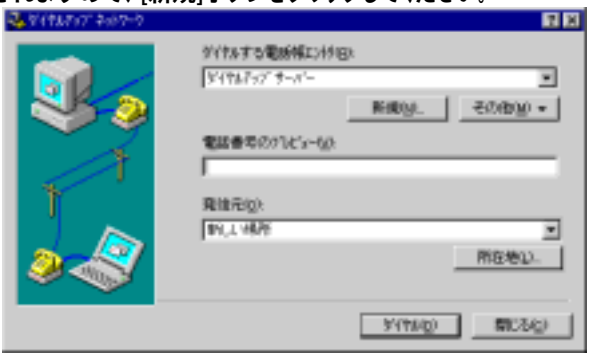
9 **『ﾓﾃﾞﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されますので、[閉じる]ボタンをクリックしてください。**

以上で、インストールは終了です。
インターネットに接続する方法を説明しますので、次ページへ進んでください。

4.2.2 インターネットに接続するまでの設定

ここでは、「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」の設定でインターネットに接続するまでの設定を行います。

1 『ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックしてください。下記の画面が表示されますので、[新規]ボタンをクリックしてください。



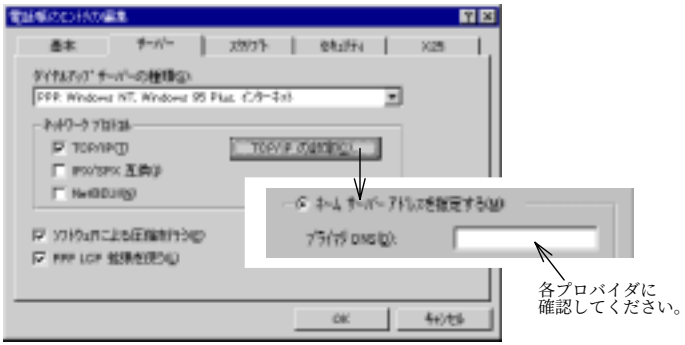
2 『新しい電話帳のｴﾝﾄﾘ ｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面で、電話帳に登録する名前を入力して、[次へ]ボタンをクリックしてください。

3 『ｻｰﾊﾞｰ』画面で、「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄに接続する」の項目をチェックして、[次へ]ボタンをクリックしてください。

4 『電話番号』画面で、登録する電話番号（プロバイダに登録した電話番号）を入力して、[次へ]ボタンをクリックしてください。画面が変わったら、[完了]ボタンをクリックしてください。設定した電話番号が登録されます。

5 『ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ』画面に戻るので、[その他]ボタンをクリックし、「ｴﾝﾄﾘとﾓﾃﾞﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨの編集」を選択してください。

6 「ｻｰﾊﾞｰ」タブをクリックし、「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛﾄｺﾙ」の「TCP/IP」をチェックしてください。次に、[TCP/IPの設定]ボタンをクリックして、「ﾈｰﾑ ｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽを指定する」をチェックし、「ﾌﾟﾗｲﾏﾘ DNS」を入力します。(各プロバイダに確認してください。)
[OK]ボタンをクリックしてください。



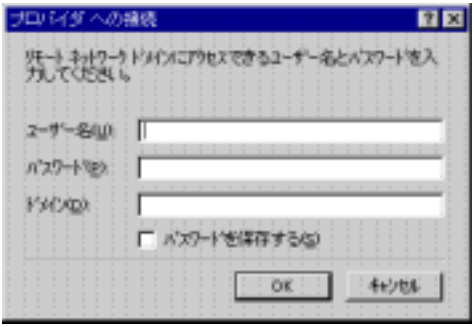
7 ｴﾝﾄﾘの編集画面に戻ったら、今度は「ｾｷｭﾘﾃｨ」タブをクリックし、「ｸﾘｱ ﾃｷｽﾄを含む任意の認証を受け付ける」をチェックしてください。編集が全て終わったら、[OK]ボタンをクリックしてください。

4.2.3 インターネットへの接続

ここでは、【4.2.2 インターネットに接続するまでの設定】(P58)で設定した「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」でインターネットサービスに接続する手順について説明します。

1 「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ」画面の[ﾀﾞｲﾔﾙ]ボタンをクリックします。

2 「プロバイダへの接続」画面が表示されます。

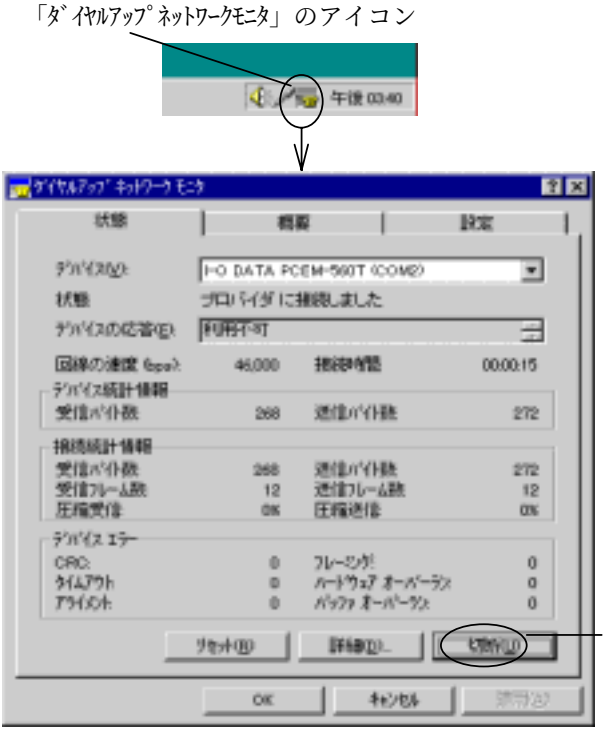


「ﾕｰｻﾞｰ名」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の欄に、「ﾕｰｻﾞｰ名」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力してください。「ﾄﾞﾒｲﾝ名」は特に入力する必要はありません。

（入力した「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は「*****」と表示され、画面上で確認できませんのでアルファベットの大文字小文字などを間違えないように特に注意してください。）

入力後、[OK]ボタンをクリックします。設定した電話番号へ接続します。

3 **接続が完了すると、タスクバーに「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸﾓﾆﾀ」アイコンが追加されます。「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸﾓﾆﾀ」アイコンをダブルクリックすれば接続状況を確認できます。後はお持ちのWWWブラウザ等でインターネットをお楽しみください。**



4 **インターネットを終了する場合は、「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸﾓﾆﾀ」アイコンをダブルクリックし、「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸﾓﾆﾀ」画面の[切断]ボタンで切断できます。**

注 意

回線状況により、回線速度が速すぎてCRCエラーとなる場合があります。CRCエラー発生時のエラー音が気になる場合は、「ﾀﾞｲﾔﾙｱｯﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸﾓﾆﾀ」→「設定」タブで「音を鳴らす場面」の「回線ｴﾗｰが発生したとき」のチェックを外せば、音が鳴らならなくなります。

付録1 困った時には

PCEM-560Tが異常になる理由は様々です。ユーザーによって容易に改善できる場合もあります。
この章では、個々のトラブルを解決するヒントを提供します。

付1 LAN,モデム共通

● Windows95上のトラブル

• インストール直後のトラブル

インストール終了後の確認が正しくない。

原因1 PCEM-560Tが正しく取り付けられていない場合があります。

対処 PCEM-560Tのラベル面が上になっているか確かめてから、もう一度PCカードスロットの奥までしっかりと差し込んでみてください。
挿入するスロット、装着方法はご使用のパソコンのマニュアルを参照してください。

原因2 PCカードドライバがインストールされていない場合があります。

対処 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を開き［ｼｽﾃﾑ］アイコンをダブルクリックします。
［ﾃﾞﾊﾞｲｽ ﾏﾈｰｼﾞｬ］タブをクリックして一覧の中の［PCMCIA ｿｹｯﾄ］を調べます。存在しないまたはアイコンに［！］マークがついている場合は、パソコン本体の取扱説明書を参照の上、PCカードドライバをインストールしてください。

原因3 **PCEM-560Tが正しくインストールされていない場合があります。**

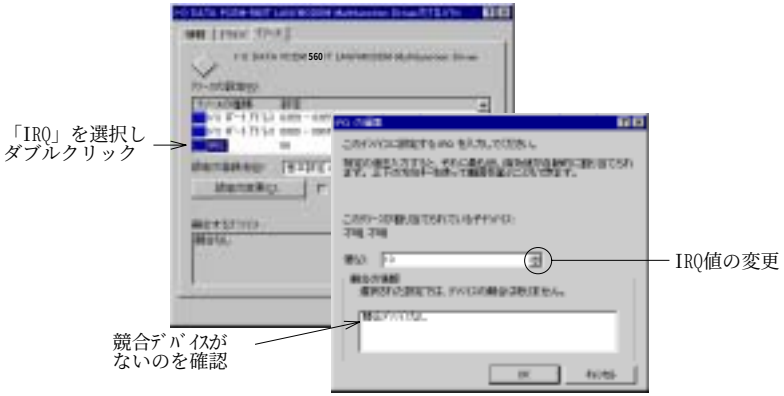
対処 **①【・ インストールしたドライバの確認】(P27)の手順2で先頭に？マークや！マークが付いていたら、モデム及びLAN機能は正しくインストールされていません。**
【3.3 インストールされた情報を削除するには】(P30)を参照して、一旦ドライバを削除後、【3.1.2　インストール】(P19)を参照して、もう一度、正しくインストールしてください。

②【・ インストールしたドライバの確認】(P27)の手順3でリソースが競合している場合
以下の「リソースの変更」を参照して、リソースを変更してください。

・リソースの変更

1.『I-O DATA PCEM-560T LAN/MODEM Multifunction Driverのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で、[自動設定]チェックボックスのチェックを外します。

2.「ﾘｿｰｽの種類」での変更する（競合している）ﾘｿｰｽを選択し、ダブルクリックします。以下の例は、IRQ(割り込み)の変更例です。変更する場合は、必ず競合するﾃﾞﾊﾞｲｽがない値に変更してください。



● WindowsNT4.0上のトラブル

「ｻｰﾋﾞｽ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾏﾈｰｼﾞｬ」で以下のエラーが表示される。
「一つ以上のｻｰﾋﾞｽまたはﾄﾞﾗｲﾊﾞがｼｽﾃﾑ起動時にｴﾗｰになりました。」

原因1 PCEM-560Tが正しく取り付けられていない場合があります。

対処 WindowsNT4.0を終了し、電源を切り、PCEM-560Tのラベル面が上になっているか確かめてから、もう一度PCカードスロットの奥までしっかりと差し込んでみてください。

原因2 ﾘｿｰｽが競合している場合があります。

対処 「WindowsNT 診断ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」(53ページの「確認3」参照)で空きﾘｿｰｽを確認後、ﾘｿｰｽを変更してみてください。(『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を開き［ﾈｯﾄﾜｰｸ］アイコンをダブルクリックし、[ｱﾀﾞﾌﾟﾀ]タブを選択し、表示されているPCEM-560Tのドライバを選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンで変更できます。)

参 考

[PCEM-560Tを使用しなくなった場合]
ドライバを削除すればエラーメッセージもなくなります。
（『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を開き［ﾈｯﾄﾜｰｸ］アイコンをダブルクリックし、[ｱﾀﾞﾌﾟﾀ]タブを選択し、表示されているPCEM-560Tのドライバを削除してください。）
ただし、ドライバ削除後、PCEM-560Tを使用する場合は再度インストールが必要となります。

付12 モデム使用時のトラブル

パソコン通信時のトラブル

通信できない、あるいはモデムが正常に動作しないなどのトラブルが発生した場合は、故障と考える前に以下の手順で確認を行ってください。ほとんどのトラブルは簡単な確認を行うことで解決できるはずです。

参照

ATコマンドについては、「PCEM-560Tサポートソフト①」ディスクのMANUALディレクトリ内のREADME.TXTを参照してください。

1以下の手順で確認を行います。すべて正常だった場合はモデムと端末間は正常に動作しています。2へ進んでください。

- **通信ソフトからAT・と入力して、画面にATと表示されることを確認してください。**
  - **表示されない場合**

    ATE1・と入力してから、AT・と入力してみてください。それでも表示されない場合は

    1)通信ソフトのCOMポートの設定に間違いがある。

    通信ソフトの取扱説明書を参照して、COMポートの設定を正しく行ってください。

    2)モデムカードが正しく挿入されていない。

    【第2章】(P10)で取り付け後、ご使用になるOSによって【第3章】(P17)または【第4章】(P45)を参照の上、モデムカードを正しく取り付けてください。

    3)割り込みが空いていない。

    使用していない機器を取り外して、割り込みを空けてください。

    (詳細については、パソコン本体の取扱説明書をご覧ください。)
  - **AT・と入力した後、画面にATと表示はされるが、OKとリザルトコードが表示されない場合**

    ATQ0・と入力して、リザルトコードありに設定します。

2ATD177↵と入力して、天気予報にダイヤルしてみます。
スピーカーから正常に天気予報が聞き取れたときは、モデムと電話回線間は正常です。**3**へ進んでください。

● **ダイヤルできない場合**

・モデムからダイヤル音（プッシュ回線の場合は「ピッポッパ」、ダイヤル回線の場合は「ガリガリ」）が聞こえることを確認してください。
聞こえない場合、またはご使用の回線タイプと違った音が聞こえる場合は、プッシュ回線ならATT・、ダイヤル10PPS回線ならATP&P1・、ダイヤル20PPS回線ならATP&P3・と入力してから、もう一度、ATDコマンドを入力します。

● **ご使用の電話回線がプッシュ回線か、ダイヤル回線か不明の場合**

・ご使用の電話機からダイヤルし、受話器から「ピッポッパ」と聞こえる場合はプッシュ回線、「ガリガリ」と聞こえるときはダイヤル回線です。ご不明なときは最寄りの電話局にお問い合わせください。

● **スピーカーから音が聞こえない場合**

・ATM1・と入力してスピーカーをONにしてください。スピーカーの音量はATL1・で小、ATL2・で中、ATL3・で最大になります。

注意

1) 弊社製CardDockシリーズ(CardDock2-EX/DV,CardDock2-EX/98およびCardDock2-IN/DVは除く)に接続して使用している場合は、音は鳴りません。
2) ノートパソコンによっては音が聞こえない場合があります。

● **PBX内線から発信できない場合**

・PBXがNTTの電話回線と同じ電気的仕様の回線であることを確認してください。
・ゼロ発信していることを確認してください。ゼロ発信していないときは、ATDコマンドの電話番号の先頭に0,をつけて、ATD0,177・と入力してください。

● **NO DIAL TONEというメッセージが表示される場合**

・PCカードとモジュラージャック（LINE端子）が専用ケーブルでしっかりと接続されていることを確認してください。
・モデムを接続している電話回線が、電話局からの直通回線であることを確認してください。直通回線でない場合はATX1・またはATX3・と入力して、ダイヤルトーンなしに設定してください。ダイヤルコマンドのWオプションも使用しないでください。

3 ATDxxxxxx↵と入力（xxxxxxxは相手モデムの電話番号）して、相手モデムにダイヤルしてみます。
CONNECTと表示されたらモデムとモデム間は正常です。4へ進んでください。
CONNECTと表示されない場合は相手を変えてダイヤルしてみてください。
特定の相手だけと接続されない場合は相手側に原因がある可能性があります。
どこにかけても接続できない場合はこちら側に原因がある可能性があります。

- ダイヤルした後、NO CARRIERと表示される場合
  - 相手側は通信可能な状態にない可能性があります。相手側のモデムや通信ソフトウェアが起動しているかどうか、着信可能な設定になっているか、確認してください。
  - 同じ番号を4回以上続けてダイヤルしていないことを確認してください。端末審査協会の規定により、3分以内に同じ番号をダイヤルできるのは3回までに制限されています。3分以上待ってからダイヤルしてください。
- ダイヤルした後、BUSYと表示される場合
  - 相手モデムは通信中です。しばらくしてから、再度かけなおしてください。
- ダイヤルした後、呼び出し音が聞こえない場合
  - 電話番号を正しく入力したかどうか確認してください。誤った番号を入力した場合は、もう一度かけなおしてください。
  - モデムがPBXの内線に接続されているかどうかを確認してください。PBXの内線に接続されている場合は、ATDコマンドの電話番号の先頭に0,をつけて、ATD0,の後に電話番号を入力してください。
- ダイヤルした後、ピーガーという音(ハンドシェーク音)が鳴りやまない場合
  - 通信速度が合っていることを確認してください。合っていない場合は通信速度を合わせてください。
  - 通信プロトコル（MNP、V.42など）が合っていることを確認してください。合っていない場合は、相手のモデムの設定に合わせてください。
  - 他のモデムに接続できるのに、特定のモデムに対してだけ、接続できない場合は電話回線の状態が悪く、うまく接続できない場合があります。
  - 電話回線の状態が悪く、接続できない可能性があります。工事担任者に依頼して送出レベルの変更を行ってください。

● CONNECTと表示された後、すぐにNO CARRIERと表示される場合

・相手側モデムが通信速度、通信プロトコル（規格）の不整合のため回線を切断している可能性があります。通信速度とプロトコル（MNP、V.42など）の設定を相手モデムが接続できる設定に直してください。

4接続した後、データの送受信が正常に行えない場合は、以下の点を確認してください。

● 通信中に文字化けが起こる場合

・モデムと端末の通信速度が合っていない場合は、速度を合わせるか、端末速度固定に設定してください。

・DTEポート（端末側）フロー制御を設定してください。

・モデムポート（回線側）フロー制御方法が、通信相手の設定条件と合っていない場合は合わせてください。

・データフォーマットが通信先の設定条件と合っていない場合は合わせてください。

● ファイルの送受信ができない場合

・ファイル送受信に使用するプロトコルを、相手側が使用できない可能性があります。相手側が使用できることを確認して、同じプロトコルを使用するようにしてください。

・プロトコルによっては相手側を受信待ちにしておく必要があります。
（XMODEM,YMODEMなど）

・通信ソフトが異なると、同じプロトコルを使用しても若干、相性がある可能性があります。同じ通信ソフトを使用してみてください。

・通信相手の回線状況が不安定である可能性があります。MNPまたはV.42を使用していない場合は、使用する設定で試してください。

5 56000bpsで通信できない。

・回線状況により、設定回線速度（特に50000bps以上）より低い速度で接続する場合があります。（ISDN回線などのノイズの少ない回線をご使用ください。）
・モジュラーケーブルは付属のものを使用し、なるべく束ねないようにしてください。
・接続プロバイダがK56flexに対応していない場合があります。

6 こちらからダイヤルして正常に接続するのに、相手モデムからダイヤルすると着信できない場合は、以下の点を確認してください。

● S0レジスタが着信可能な設定になっているかどうか確認してください。S0レジスタが0に設定されているときは自動着信しません。S0レジスタの設定値を1以上にして自動着信するよう設定するか、RINGが表示されたらATA・と入力して強制着信させてください。

付録2 ハードウェア仕様

ここではPCEM-560Tのハードウェア仕様について記述します。

《一般仕様》

端末インタフェース	PCカード規格準拠
端末通信速度	115200/57600/38400/19200/9600/4800/2400/1200/300 bps
供給電圧	+5V 単一（±5%） PCカードスロットより供給
消費電流	LAN & モデム　動作時 +5V/280mA モデム　動作時 +5V/280mA LAN　動作時 +5V/80mA
使用可能な割り込み番号	IRQ 3,4,5,6,7,9,10,11,12,13,15
使用可能なI/Oポートアドレス	以下のいずれかのベースアドレスから20h使用可能 0x300,0x320,0x340,0x360,0x380 LAN……200h～3D0h（10hごと） モデム …2E8,2F8,3E8,3F8
使用可能なメモリアドレス	以下のいずれかのベースアドレスから1000h使用可能 0xD0000,0xD1000,0xD2000,0xD3000,0xD4000,0xD5000,0xD6000,0xD7000,0xD8000, 0xC8000,0xC9000,0xCA000,0xCB000,0xCC000,0xCD000,0xCE000,0xCF000
使用温度湿度範囲	温度：10～35℃ （パソコンの動作する温度範囲であること。） 湿度：20～80% （ただし、結露しないこと。パソコンの動作する温度範囲であること。）
寸法	54.0(W)×85.6(H)×5.0(D)　[mm] PCカード規格 TypeⅡ準拠
重量	約35g
認定番号	S98-2358-0
認定年月日	平成10年6月3日

PCEM-560Tは、技術基準適合認定を受けています。

- **LANアダプタ部**

メディアタイプ	IEEE802.3 10BASE-T
バス幅	16bit
RAMバッファ	32KB
アクセス方式	CSMA/CD

- **モデム部**

《NCU部》

通信回線	1回線
適応回線	一般電話加入回線(PSTN)
NCU	AA（自動発進、自動着信）
選択信号	PB/DP(10,20pps)
制御コマンド	ヘイズ社ATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド(Class1)

《データモデム部》

通信方式	全二重
同期方式	調歩同期式(非同期)
通信速度 (送信時)	56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/40000/38000/ 36000/34000/33600/32000/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps
通信規格	K56flex ITU-T：V.34/V.Fast(V.23対応)/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21 Bell：212A/103
送出レベル	-6～-15dBm
受信レベル	-6～-40dBm
エラー訂正機能	ITU-T：V.42(LAPM) MNP2,3,4,10,10EC
データ圧縮伸長 機能	ITU-T：V.42bis MNP5

《FAXモデム部》

通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信規格	ITU-T：V.17/V.29/V.27ter/V.21　channel2

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

弊社PLANTコールセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所･氏名･郵便番号･連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピィディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOS(NOS)とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン (パソコン通信)

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	http://www.iodata.co.jp/ 「PLANTコールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してE-mailをお送りください。
IOS-NET	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ機器ﾌｫｰﾗﾑのサポートセンター
NIFTY-Serve	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

■郵便

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「PCEM-560T」係　宛

■電話

電話番号　東京　03-5256-2010

受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX番号　東京　03-3254-9055

宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「PCEM-560T」係　宛

本製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■IOS－NET

アクセスポイント

東京　03-5295-6570　　大阪　06-368-2291
金沢　076-234-9811　　VTX(*) 166-77100

『アイ･オー･データ機器フォーラム』→『サポートソフトライブラリ』を選び、必要なソフトや差分ファイルをダウンロードしてください。

(*)VTXのお申し込みと、VTXに対応した通信ソフトが必要です。VTXに関するお問い合わせは最寄りのNTT(0120-443322)へどうぞ。

IOS-NET概要

最大通信速度	33600bps				
通信手順	N81XN （ﾊﾟﾘﾃｨﾋﾞｯﾄなし,8bit DATA,ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ1, X ON,ｼﾌﾄ制御なし）				
使用文字コード	シフトJIS		制限時間	30分	
CONNECT ID	IOS	USER ID	GUEST	パスワード	なし

■その他のパソコン通信

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　http://www.iodata.co.jp/ →「ｻﾎﾟｰﾄ･ﾗｲﾌﾞﾗﾘ」
NIFTY-Serve　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)のﾗｲﾌﾞﾗﾘ9(LIB 9)

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。(送料及び手数料はお客様負担)

住所　〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「PCEM-560T」 バージョンアップ係　宛

電話番号　076-263-7070

受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

●パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
●添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
●このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社PLANTコールセンターへご依頼ください。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANTコールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合

- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

●修理品送付先

住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町15街区7 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「PCEM-560T」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

PCEM-560T 取扱説明書
1998.Jun.24 16883-01
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

© 1998 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください

Verシール